

絶望出来るなら失う怖さに叫びはしない…

作詞 J'Soul (浅羽一)

誰かが泣いた涙の落ちる音で目が覚めた
ベッドで起き上がり世界を眺める
真っ暗な部屋なのに 何故か鏡と僕は目が合い
透明な涙を零^{こぼ}して一人…泣いていたのは僕だった…
絶望することは怖くない 絶望出来るなら怖くない
全てを終わらせて無くしてしまえるのなら…怖くない
何時までも何時までも 永遠に続く闇の中を
光を想いながら生きていく恐怖に比べれば…
慰めなんかは役に立たない 諦めなんか美談にもならない
気休めばかりが僕の世界で渦巻いている

誰にも言えぬ独りぼっちの悲しみの肩が
後ろで人知れず小さく震える
声を上げることもなく 拳を振り回すこともなく
両膝を抱えたままの姿で…『助けて欲しい』が言えずに…
強がりが邪魔した訳じゃない 頼りたくなかった訳じゃない
君が僕の前から去ってしまう不安が…怖かった
君がいないたった一人 二度と戻れない闇の中へ
何も持たずに置き去りにされる恐怖が横にいた…
お祈りなんかじゃ何も変わらない 『運命』なんか理由にはならない
冷たい『結果』が僕の明日を決めつけていた



全て忘れて消せるなら 何も感じず死ねるなら
こんなに未来を呪いはしないさ…
絶望の中で静かに眠りにつけるなら いっそ楽になれるのに…

■繰り返し

…もうすぐそこまで…近付いている…